

今月1日に設立15周年を迎えた。CM（コンストラクション・マネジメント）やPM（プロジェクト・マネジメント）の専門組織として発足し、現在は建設の枠を超えた業務にも携わっており、「一步先を行く企業になりたい」と意気込む。



—就任の抱負を。

「この10年間、鈴木紀行

前社長（現会長）が経営面、

私が業務面の二人三脚で会社の発展に努めてきた。今後は両面をバランス良くかじ取りしながら、次のステージへの進化、前進を確実にしていきたい」

—事業環境は。

「建設業だけでなく、すべての業種にマネジメントが必要とされている。CR

山下ピー・エム・コンサルタンツ

かわはら
川原

ひでひと
秀仁氏

新たな価値・事業を創造する企業に



新社長

83年白理工大学部建築学科卒、農用地開発公団（現森林総合研究所森林農地整備センター）入社。91年4月山下設計入社。99年1月山下ピー・エム・コンサルタンツに移り、05年12月取締役統括部長、08年12月常務。佐賀県出身、52歳。サーフィンやイラスト、音楽など多趣味で、休日も多忙。

「見えない川上」を創造し、事業推進、事業管理の3本

—組織については。

（12月14日就任）

E（企業不動産）やインフラを経営資源、社会資産として有効活用するCRE戦略が求められている。当社はCMやPMといった建設

ジメントを融合させたサービスを提供できるのが強みだ。新たなソフトと新たなハードをつなぎ、新たな価値や事業を創造する。その事業モデルを構築しないと本来的な解決にならない

—新たな事業モデルをどう構築していくのか。

「日本が得意とする日本の魅力発揮、低炭素改革、健康長寿の『3極』に、得意な財務・会計概念の『1極』を融合すると、ビジネスとして成り立つ次世代モデルが生まれてくる。数年後にはこれを倍増させてきた。12年度は過去最高

—課題は。

「人材確保だ。建設関連の高いスキルを持ちながら明日の日本を考えような大志を抱いている人を採用していきたい。多様な分野で感度の高い人と密にネットワークしていくのも一つの方法だ。医療など相乗効果の発揮できる領域では山下設計とも積極的に連携・交流していきたい」

部制を敷く。スタッフはあまり部署に固定せず、プロジェクトや適性に応じて流動化させたい。そのハブとして事業統括部を機能させ

る。各本部では見えない川上を見るようにし、YP

MC未来研究所ではさらにその先を発掘するよつた研究に取り組む